

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第35回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2026年 **2**

学生広報チーム × 山崎製パン株式会社 京都工場 地域と共に進化し続ける山崎製パン

現役の大学生として大学の魅力を発信し、地域の課題解決にも取り組む「学生広報チーム」が、「山崎製パン株式会社 京都工場」の工場長佐藤雄二様と総務課長石角貴彦様取材しました。

【安全と品質を守る「人の力」】

買い物に行くと、見かけない日はないほど身近な存在である「ヤマザキパン」。その商品を製造する山崎製パンの強みは“物流”です。北は北海道、南は熊本まで工場があり、それぞれの工場で作られた商品は、新鮮で品質の保たれた状態でお客様に届けられます。

この物流に欠かせないのが「人の力」です。京都工場では、作る人、運ぶ人、管理する人など、計1,260名もの職員が働いているそうです。このような大きな組織を運営し「人の力」を引き出すためにも、働く環境の改善や研修等の人材教育に力を入れていらっしゃいます。この度取材にご対応頂いた佐藤工場長は「従業員の安全を守ることは私の使命であり、やりがいでもある」とお話をされていました。職場環境に関するアンケートを毎日行い、従業員にとってより良い労働環境にするために、工場長自ら施設内を数時間かけて巡回しているそうです。工場の要として「血液」と称しているほどの設備はもちろん、日々の細やかな配慮の積み重ねが、より良い商品づくりにつながっています。



↑取材の様子

【食で支える普段の暮らし、「食のインフラ企業」としての災害支援】

世界各地に拠点を構え、私たちの日常に寄り添う山崎製パン。そんな山崎製パンは社会貢献として、地域とも連携しながら食育や交通安全啓蒙など様々な活動に力を入れています。今回はその中でも災害支援に関する取り組みについてお教えいただきました。

山崎製パンは阪神・淡路大震災をきっかけとし、防災の取り組みにより力を入れたそうです。震災など有事の際に要請があれば対応することができるよう、増産できる体制を整えられました。2024年に発生した能登震災の際にも実際に要請を受け、名古屋工場が中心とはなったものの、京都工場でも3万袋ものパンを増産し、お届けされました。このように災害支援に力を入れて取り組み、「食」という欠かすことのできない面から社会を支え、貢献してくださっています。



↑ 京都工場の前で

【地域に寄り添い、ともに歩む企業へ】

昭和23年の創業から約70年、大企業となった今でも挑戦をし続けておられました。まず、特徴的なのはその新商品の開発です。量販店での試食販売、パイヤーや取引先からの声、本社で行っているアンケートなどを通してお客様の声をヒアリングし、その声を女性開発担当者や各課の課長と会議をすることで共有し、トレンドを取り入れた、幅広い層の人に愛されるパンを作り続けておられます。また、地域連携にも力を入れており、地元宇治の組織や企業とコラボした新商品の開発、近隣の小・中学校での食育活動(サンドイッチ教室)、安全についての研修の実施、パンのトラックの貸し出しなど様々な取り組みをしておられました。

最後に、今回の取材を通じ、佐藤工場長の「宇治市あつての工場」というお言葉が、地域を支え、地域に支えられる企業を目指しておられるのだと、とても印象に残りました。

【今回の取材先】

山崎製パン株式会社 京都工場
(宇治市榎島町目川100)



↑ 京都工場 工場長 佐藤雄二氏

パンや和洋菓子を製造する関西の主要拠点として、24時間稼働の体制と徹底した品質管理を強みとし、安定した商品供給を通して地域の食生活を支えている。安全・安心な製品づくりを通じて、信頼される食品メーカーとしての役割を担っている。

【今回の取材担当】

学生広報チーム

京都文教大学の学生で組織される学生団体。オープンキャンパスや高校生向けイベントの運営等を通じて、高校生に向けて、京都文教大学の魅力を全力で発信することを目的としている。また、企業や行政とともに地域課題に取り組むなど、学内外で大学のPR活動に努めている。現在、約30名で活動中。



取材・記事の作成を担当した学生。左から、岸本 律希さん(臨床心理学部1年次生)、鵜飼 望生さん(臨床心理学部年次生)、森田 夏菜(臨床心理学部2年次生)、中村 莉乃さん(総合社会学部2年次生)